



# 半月の家

周辺の視界を遮断しながら「空」とつながる2階。



複数の庭に接しながら雁行する「地面」とつながる1階。

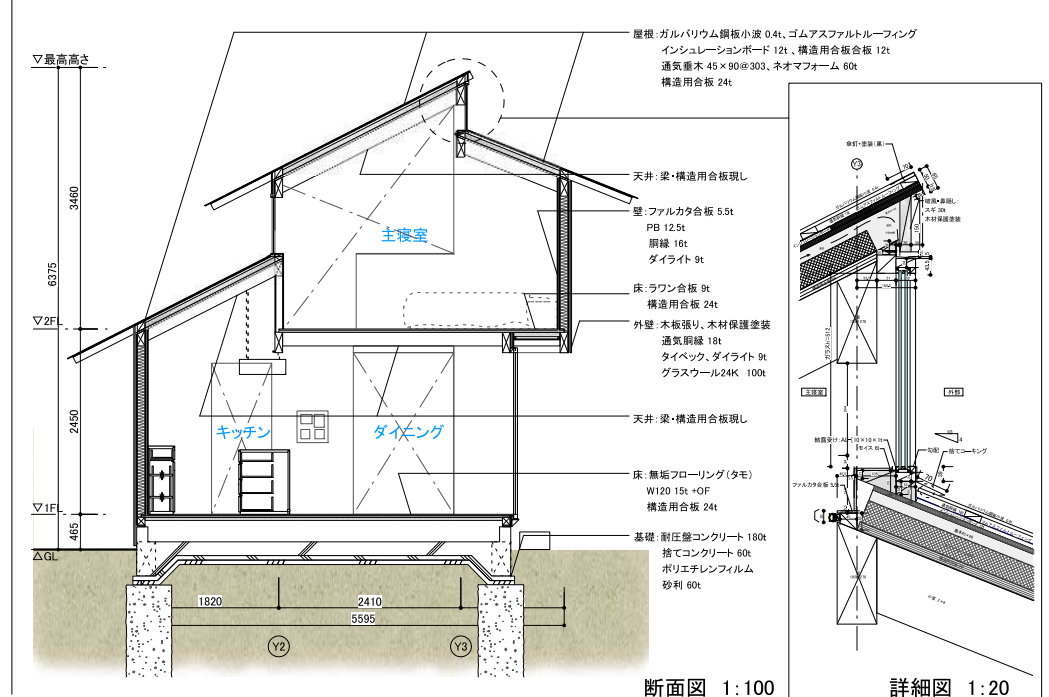
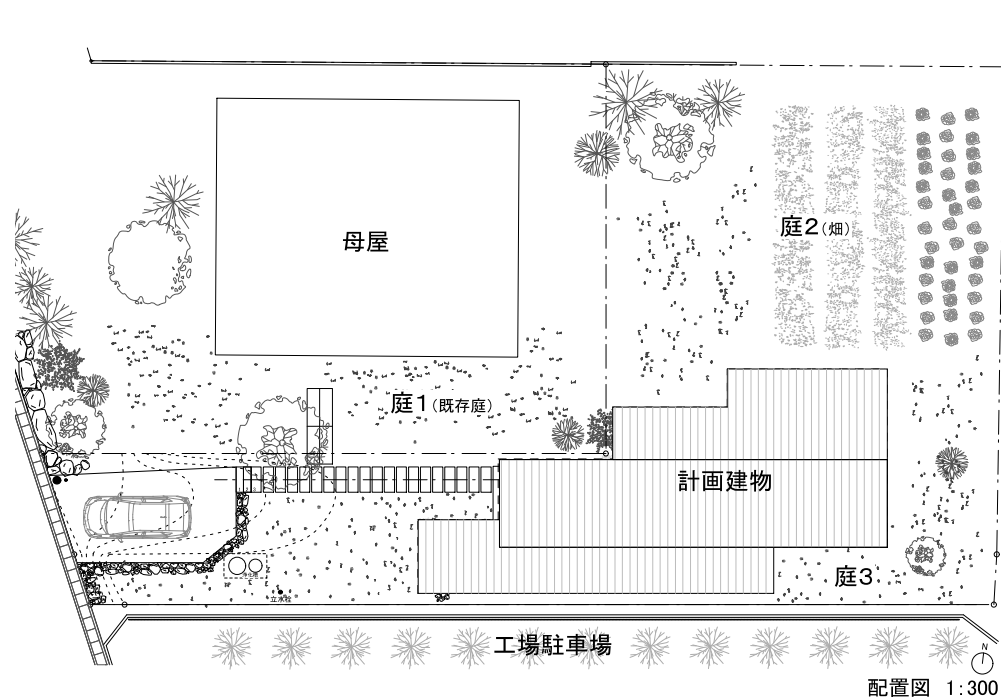


周辺に向けてヴォリュームを抑えて気配を届ける。



既存植栽を避けながら雁行平面に酔って敷地に余白を設ける。

敷地周囲は工場とその駐車場および畑が点在している。クライアントからは、プライバシーを確保すること、庭にむけて開くことの双方が求められた。また敷地は両親の土地を分筆した旗竿状になっていた。そこで、旗竿敷地の路地部分に小さな帯状のヴォリュームを配置し、敷地奥に複数の帯が連なる配置計画を行った。その際平面を雁行させることで、既存植栽を避け、また新たな庭を敷地奥に設けることを提案した。細長い帯は室内で連なり、幅のある居室として用途に対応している。断面計画として、近隣への圧迫感低減、プライバシー確保、畑への日射取得ため、勾配屋根を採用し、周辺に向けて低く構えた。屋根の間は開口とし、外部環境を取り込めるように計画した。この住宅は、1階では畑や庭など、暮らしが外部環境に広がっていき、2階(寝室)では、就寝時や座位時に周囲の視線や建物を遮断しながら、空へと視界が広がる。ひとつの建物の中に「地面」と「空」といった多様な外部環境とのつながりが実現しており、この場所での暮らしを豊かなものになっている。





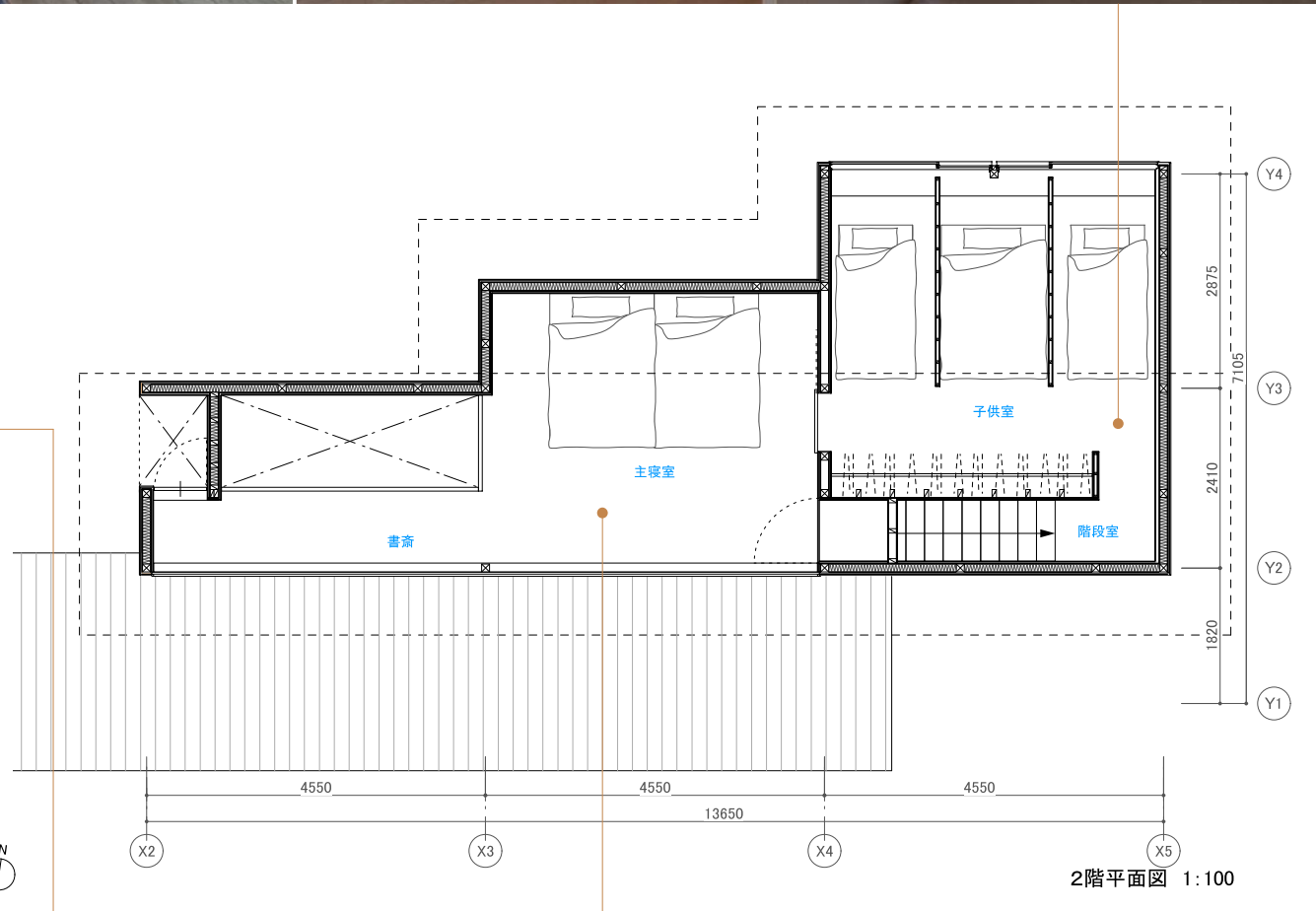
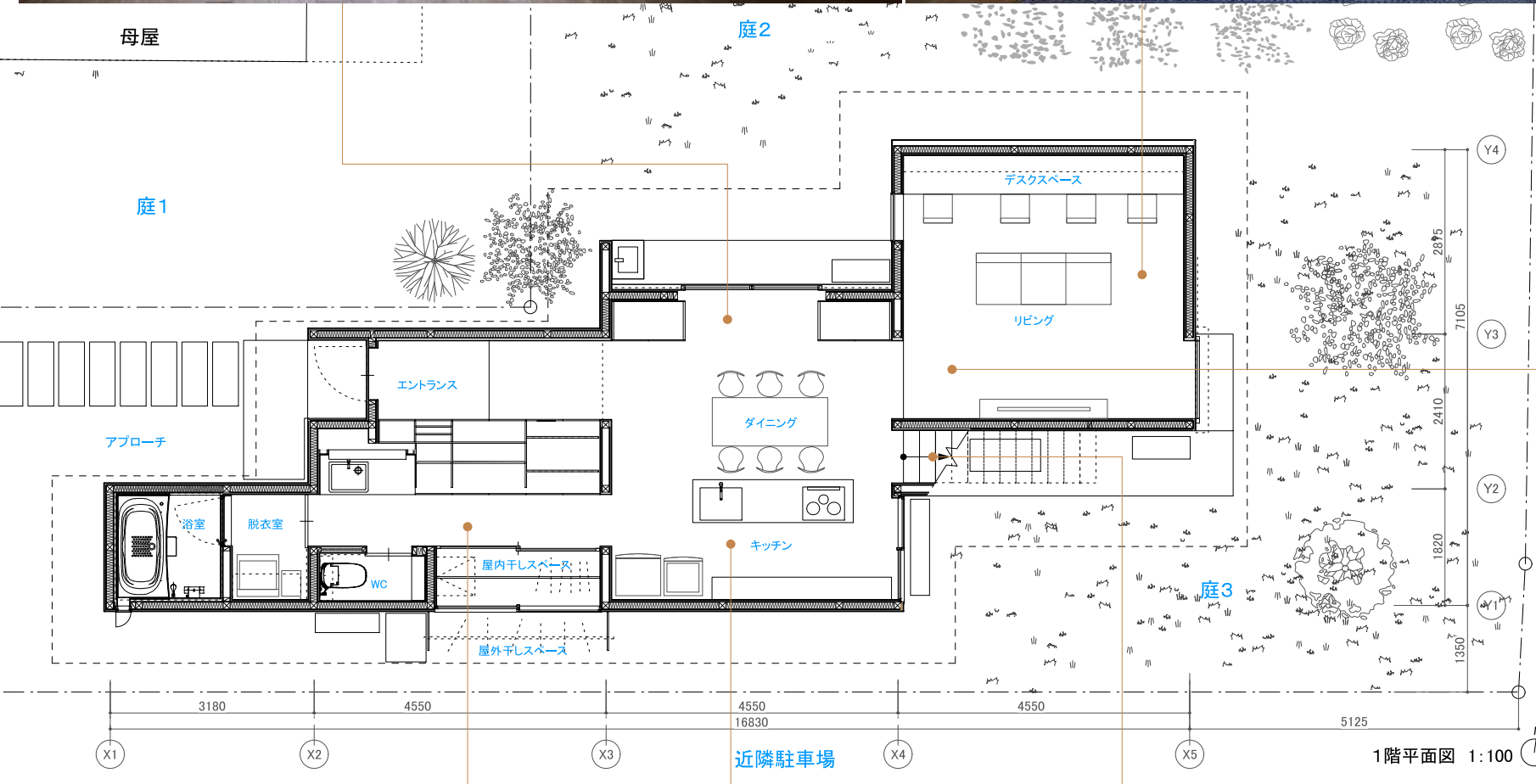
引き分け窓を開けると畑と内部空間が一体化する



畑側は壁で閉じ、既存の庭1に向けて開く



屋根裏部屋のような子供室。部屋の突き当りに窓とテーブルを設置。



家事動線を一本化したプラン。



キッチンから庭2と近隣の畑が望める。



窓は見えないが自然光の反射で室内が明るい。



開口によって緩く部屋を隔てながらつながっている。



南側は近隣の植栽、畑、北側は空が望める寝室。